

「サルバルサン」ト眼梅毒ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38175

一、臭 味 無味無臭 一、反 應 弱アルカリ性

一、格魯兒 四〇・一〇 一、硫 酸 痕跡

一、亞 硝 酸 痕跡 一、安母尼母 檢出セズ

一、固形物總量 七、八四〇 一、硬 度 一、一〇五

一、細菌聚落數 一五 一、過滿儉酸加里消費量 〇、五八七

註 1 表中含有物ノ量ハ檢水「リ―テ」中ニ含有スル「ミリグラム」量

ヲ示ス、

2 硬度ハ獨逸法ニヨル、

3 過滿儉酸加里消費量ハ檢水「リ―テ」中ニ含有スル有機物ノ酸化ニ要スル過滿儉酸加里ノ「ミリグラム」量ナリ、

4 細菌聚落數ハ檢水「立方」センチメートル」中ノ細菌數ヲ示ス、

結 論

一、「ネオサルブルサン」濃厚液靜脈内注射ニ溶解液トシテ水道水ヲ用キルモ新鮮ナル食鹽水ヲ以テシタル片ニ比シ其ノ副作用及ビ効力ニ差異ナシ
一、蒸餾水又ハ食鹽水ノ準備ヲ要セズ應用ニ簡易ニシテ且ツ便利ナリ、

●「サルバルサン」ト眼梅毒ニ就テ

ドクトル

辻本辰之助

(三十二年卒業)

私ノ演題ハ昨年一度十全會ニ提出セルモ事故ニヨリ欠席致シマシタノデ年越ノ演題デアリマスカラ歐ガ生テ居リマシテモ何等目新シキ事柄ノナイコ

トハ前以テ御斷リ致シ置キマス、

然シ時殆モ「サルバルサン」ノ發見者ノ一人エーリヒ博士ハ今年三月十四日方六十才ノ誕生日ノ由デアリマスカラ此機會ニ於テ私ノ小實驗ヲ述ベ聊カ御清聽ヲ煩スト同時ニ遙方ニ斯ノ偉人ニ敬意ヲ表シヨウト思ヒマス、
却說、「サルバルサン」ガ梅毒ニ對シテ優秀ナル治効ヲ奏スルコトハ己ニ業ニ世人ノ普ク知ル所デアリマス、而シテ又タ其梅毒ノ種時期、病症ノ輕重、新舊、及梅毒性疾患ノ占居スル器關ノ異ルニ從ヒ其治効ニ差異アルコト亦

已知ノ事實デアリマス

今私ハ茲ニ眼梅毒ニ對スル治療の價値ニ付キ極メテ概觀ヲ述ベ本會講話部委員諸君ヨリ何カ講話セヨトノ切角ノ御勸誘ニ應セル責任ヲ脱セントスル次第デアリマス

最始「サルバルサン」ノ發見ハ梅毒性眼病ニ對シテ其効果ヲ大ナル希望ヲ以テ迎ラレタルモ其後不結果ノ報告、又期待セラレタル成蹟ヲ擧ケ能ハサル場合アル片且數一回ノ注射克ク全治セシムルヲ得サルニ及ンテ漸ク非難ノ聲ヲ聞クニ至レリ而シテ今ヤ本品ノ價値ニ付キ論述シ得ルノ時期ニ達セリ依テ余ハケツチンゲン大學眼科部ニ於テ實驗セル例トヨリ聊カ是ガ卑見ヲ述アベシ、

5.76%ハ統計ニヨリ六五%ノ良果ト三五%ノ不結果ヲ得テ曰ク「サルバルサン」ハ眼梅毒ニ對シテハ未タ他部ノ梅毒ニ於ケルヨリモ其効果少シト Becker ハ若ク吾人が「サルバルサン」ノ適量ヲ尙一層確實ニ決定スルヲ得而シテ何回且又タ夫レヲ幾日間ノ間ケツニ施行スルヤヲ定メ得ルナレハ其効果ヲ尙一層高メ得ルナラント曰ヒ

Cords ハ文獻中ヨリ多數ノ治療報告ヲ集メ其結果ヨリ「サルバルサン」ハ水銀トノ併用ヲ以テ梅毒性眼病ニ推賞スルノ價值アルモノナルヲ唱フ

Steindorf 亦是レト同様ノ觀察ヲ以テ「サルバルサン」ノ例令梅毒ノ治療藥

Heilmittel ニアブラズトスルモ然シ今日迄テノ應用上從來ノ驅梅毒ノ治療

度、水銀トノ併用ニ依テ多クノ効果ヲ呈セリ就中本品ハ沃度、水銀劑ノ効

果ナキハ或ハ是等ノ藥物ニ不耐者ニ使用シテ迅速ナル作用ヲ現セルヲ稱ス

又タ Bisfis ニ從ヘハ六〇六號ハ梅毒性眼病ニ對シテハ最良ノモノニシテ

且ツ眼ニ對シ全ク無害ナリト

Wienkiewicz ハ角膜實質炎ニ効果少キ他眼梅毒ニハ唯一ノ藥品ナリト云

ル

Gebb 「サルバルサン」使用後ニ時折現ル、眼炎症ヲ本品ノ中毒作用スル者

ニ組セスシテ本品ノ Spirochaete ナ撲滅セシムル偉大ノ作用ハ到底水銀療

法ノ如キニハ曾テ見ル能ハサル所ナリトシ

Reissert ハ「サルバルサン」治療ニヨリテ來ル副作用ノ如キハ理論的ニ趣味

アルノミニシテ稀有ノ現象ノ如キハ斯ノ偉大ナル効果ニ對シ論スルノ

價值ナキモノナリト稱ス

要スルニ以上ノ諸氏ノ説ク所亦其觀察ニ多少ノ差異ヨリ未ダ全ク決定スル

ニ到ラズ、

(一) 眼梅毒ノ各病症ニ對スル價值

次テ眼梅毒ノ各疾病ニ對スル價值ニ付キ Steudt 氏ハ四七〇ヲ集メ左ノ統

計ヲ記ス

Bei Inetischer Erkrankung	prompt Erfolg bezw. günstige Beeinflussung in %	kein Erfolg bezw. Rezidiv in %
a. der Auglider	100 %	0
b. „ Konjunktiva	63 %	37 %
c. „ Kornea (K. parench.)	28 %	72 %
d. „ Sklera	80 %	20 %
e. „ Uveittraktus	68 %	37 %
f. „ Retina u. d. Optikus	58 %	42 %
g. „ Augennuskeln, Tabes, Paralyse.	26 %	74 %
h. „ Orbita u. d. N. trigeminus	100 %	0

比較上私ノ集メタル統計チ一寸茲ニ述ベシニ(主トシテ 一九二二間ノモノナリ)

- | 病症 | 有効 | 無効 |
|------------|-----|-----|
| 1. 眼筋麻痺 | 四三% | 五七% |
| 2. 角膜實質炎 | 四一% | 五九% |
| 3. 葡萄膜炎症 | 八三% | 一七% |
| 4. 網膜、視神經炎 | 四五% | 五五% |
- Steindorf ハ七〇〇例ノ統計上ヨリ次ノ如ク曰フ
1. 第一、第二期ノ眼瞼、結膜梅毒ニハ好成績
 2. 淚囊炎、鞏膜炎、角膜護膜腫、眼窩、骨梅毒ニ良果
 3. 後天性角膜梅毒ニハ常ニ良果先天性ノモノニハ不結果多シ

- 4. 虹彩、葡萄膜、網膜疾患ニハ迅速且良果ヲ呈ス、
- 5. 視神經炎殊ニ鬱血乳頭ニ良ク視神經萎縮ニハ望ナシ、
- 6. 眼筋麻痺ニハ早期ニハ良シ、

Dolganof 亦虹彩炎、虹彩毛様体炎、新シキ眼筋麻痺ニ良成績其他視神經炎、視神經萎縮ニモ一時的効果アリト云フ、

扱テ是レヨリ眼梅毒ノ各部疾病ニ付キ先輩ノ所見ト余ノ實驗トニ付キ聊カ愚見ヲ闡諫シタキモ多少煩雜ニ互ルト時間ノ都合トテ顧慮シ一切茲ニ省畧シ只タ其内一二幾分趣味アリト思考スル左ノ事項ニ付キ述フ

1. 先天性角膜實質炎ニ對シ「サルバルサン」ノ效果少キハ衆論ノ一致スル所ナリ其理由トシテ Schaudingel Steindorf Krauss 等ハ角膜ノ構造上(解剖的)並ニ血管ノ乏シキトニ依リ藥物ノ實質炎ニ充分侵徹シ得サルニ歸セントスルモ Löhlein ハ是レニ反對シ彼ノ動物試驗上「サルバルサン」ヲ二十四時間永ク角膜内ニ証明セルヲ以テ決シテ角膜ノ血管欠乏ニ因スルニ非ラズトシ Ygensheimer ノ説ヲ引用シ同氏ノ説ク如ク Spirochaete ハ多分胎生活中ニ已ニ角膜内ニ滅亡シ而シテ此部ノ異狀ナル榮養状態ノ下ニ Spirochaete ノ biologisch-chemische Eigenschaft ナ變化シ其爲メ藥品ニ對スル Reaktionsfähigkeit ナ變化セル爲メナラベシト稱ス

余亦 Ygensheimer ノ Theorie ナ信スルモノニシテ今尙ホ其他ニ趣味アル解結ヲ下スモノナキヲ遺憾トス、

2. 「サルバルサン」注射後ノ眼障害就中 Neurorezidiv ニ付テ「サルバルサン」治療後時トシテ現ル、眼炎症例令ハ眼筋麻痺、葡萄膜炎症就中

Neurorezidiv ニ就テハ各學者ノ所見區々ニシテ斯ル眼障害ガ將シテ「サルバルサン」ニ起因スルヤ將又タ他ノ原因ニ職由スルヤハ未タ解結セラレサル疑問デアリマス

Schanz Davids 氏ハ斯ル障害ハ「サルバルサン」分量ノ不充分乃チ少量ニ過キタル所現ル、ト稱シ

Chronis ハ斯ル炎症ハ「サルバルサン」ノ副作用ニアラズシテ本品ガ血行中ノ Spirochaete ナ全部無害タラシムルコトハ不可能デアルフノ爲メ一二ノ Keim ガ一定時後其毒性ヲ増加シ以テ再發的の症狀ヲ發現スルモノト見做スチ適當トス其証候ニ斯ル症狀ハ第二回ノ注射ニ依テ數ニ治癒スルヲ以テ明ナリト云ヒ Boeker ノ如キモ斯ル Neurorezidiv ハ只タ梅毒ニ對スル「サルバルサン」治療時ニノミ來リ得ルモ動物試驗中

Embuesie, Rekranss, Manaria ニ於ケル時ニハ起ラズト云ヒ

Dolganof 其他多クノ人ハ全然斯ル障害ヲ「サルバルサン」治療ニ見スト唱フ

余ノ小實驗ニ於テモ何等斯ル障害ヲ認めサリキ思フニ斯ル眼障害ハ從來ノ驅梅毒タル水銀療法ニ於テモ見ル所ニシテ「サルバルサン」ノ副作用ト曰ハンヨリハ寧ロ梅毒性本態ニ屬スルモノニシテ其發生機轉ハ Chronis ノ説ニ近カルベシト信ス

結 論

- 一、「サルバルサン」ハ最モ良ク眼瞼、眼窩、虹彩葡萄膜梅毒ニ作用ス
- 二、「サルバルサン」ハ遺傳梅毒、炎症消退セル眼梅毒、高度ノ組織破壊セラレタルモノニハ多クハ全ク無効又ハ其効少シ、

三、「サルバルサン」ハ從來ノ驅梅毒藥ヨリ其作用迅速ナリ從テ疾病ノ經過ヲ短縮且ツ梅毒ノ傳染蔓延ノ危險ヲ少クス、又タ從來ノ驅梅毒藥ニ不耐ノ體質又ハ無効ナルモ之ヲ使用シ得、

四、「サルバルサン」作用ノ第一兆候ハ症候的ニシテ充血、浸出物先ツ消退シ其他ハ組織破壊ノ度ニ關ス、

五、第一回注射ノ効果少キモハ次回ノ注射ヲ必用トス、

六、「サルバルサン」ノ中毒作用ハ完全ナル施術、注意セル分量、禁忌症ノ

顧慮ニヨリ避クルヲ得又タ靜脈注射ニヨリ除クヲ得ヘシ、

七、「サルバルサン」治療後眼障害ハ「梅毒性」ナツールト見做スベキモノニシテ中毒作用ニアラサルベシ、

八、「サルバルサン」ハ從來ノ驅梅毒藥就中水銀ノ併用ハ其効力ヲ高メ得、

九、「サルバルサン」ノ局所應用ハ尙ホ研究ヲ待タザルベカラズ、

●圓形糝糠疹ノ五例

金澤病院皮膚科

小原隼

三二(四十七號)卒業

本症ハ遠山學士ガ東京醫科大學皮膚科教室ニ於テ實驗シ東京ニ於ケル皮膚科學會例會ニテ「一種ノ褐色圓形落屑性皮膚病ニ就テ」ナル演題ノ下ニ初メテ報告セラレタルモノニシテ未ダ嘗テ外國ニハ其例ヲ聞カズ本症ハ名ノ如ク正圓形(又ハ僅ニ橢圓形或ハ合シテ花紋狀)ニシテ淡褐色糝糠樣落屑ヲ有スル斑ニシテ周圍トノ境界ハ極メテ明瞭ナリ皮膚ト同一平面又ハ僅ニ隆起ス又發疹ノ表面ハ前述ノ落屑ヲ以テ平等ニ被覆セラレ中央部或ハ邊緣部ヨ

リ退行シテ環狀或ハ不正形トナルヲ決シテ無シ、但シ患者入浴シテ清拭スルモハ局部ハ一種ノ光澤ヲ有シ萎縮ノ狀トナリ着色モ消エテ熟視セザレバ其境界明ナラサルニ至ル、發疹ノ大サハ種々ナルモ直徑五—一〇仙米ノモノ多ク小ナルハ〇.五仙米ヨリ大ナルハ二〇—三〇仙米ニ達ス。

好發部位ハ殆ド毎常軀幹部殊ニ腰背腹部上膊大腿ニシテ頸部以上及手足ニハ之ヲ見ズ、自覺症ハ殆ド無キガ故ニ患者多ク其ノ發生時ヲ知ラズ、或ハ僅ニ癢痒ヲ訴フルモノアリ

經過ハ慢性ニシテ數ヶ月乃至數年ニ渉ルモノアリ
余ハ金澤皮膚科教室ニ於テ左ノ五例ヲ實驗セリ

例一 杉野某(男) 農 六二才 初診大正二年四月

體格極メテ頑強一昨年末ヨリ慢性陰囊濕疹ヲ患ム、何時頃ヨリカ腰部ニ圓形ノ皮疹ヲ生ズ

例二 平田某(男) 海員 二九歳 初診大正二年十二月

胃酸過多症ノ患者ニシテ四、五年前ヨリ下腹部ニ五十錢銀貨大ノ赤褐色無痛ニシテ癢痒ナキ斑ヲ生ズ

例三 喜多某(男) 農 三二歳 初診大正三年一月

父及同胞一名ハ肺癆ニテ倒ル 患者十七歳ノ時腸壁扶斯ニ罹リ二二歳ノ時胃腸ノ疾病ヲ患ヒ爾來時々胃痛アリ二六歳ヨリ結核性膀胱炎及睾丸炎ヲ患ヘ昨年九月「カストラチオン」ヲナス、現症ハ體格矮小。筋發育皮下

脂肪中等、左側胸部、左右大腿及腰部ニ當リ小ハ直徑二仙米ヨリ大ハ四

仙米其合シテ長徑十一仙米ニ達セルモノアリ

例四 岡崎某(男) 絹商 二二歳 初診大正三年三月